



撮影=志賀 智

## 西新スタイル

コピーライター 谷本 幸

かつて住んでいた経験もないし、自宅は中央区だが、ひと月に2、3度は西新に足を運ぶ。別に西新に恋人がいるわけでも、特別な目的があるわけでもないが、西新に行くのと、なんとなく心楽しく元気になるのである。そのため、何かにかこつけては西新に行こうとする性癖が私にはある。以前スイミングスクールに通っていたときも、そのスクールを選んだ理由は西新にあったからだ。シャンプーも西新にしかないようなものを使っているし、最近はお米までリヤカー部隊から買うようになってしまった。町にたびたび会いたくて、つい「行く理由」をつくってしまう。

18年前、映画を観るために初めて西新を訪れたときの印象を今でもはっきり覚えている。懐かしいような、新しいような、元気の湧いてくる空気。天神の「お化粧した華やかさ」と対照的に、西新には「素顔のまぶしさ」があった。素材、というのとはちょっと違う。西新は私にとって十分都会であったが、飾り気のない洗練が感ぜられた。

後年、その印象は商店街と、その脇に伸びる小さな路地を歩くたびに強くなった。腕のいい蕎麦屋があったり、良心的なレストランがあったり、こだわりの小物店があったり。高層ビルの商店がないのが、西新にひとつの調和美をつくりだしている。いわば、「西新スタイル」と呼べるような共通の雰囲気町中に漂っているのである。通りや店に強烈な個性と主張があるから、行くとび新しい発見がある。人でごった返し、荷物をぶつけられたり、自転車に轢かれそうになったりするにぎわい方もアジア的で大好きだ。今は仕事の利便性から中央区を離れられないが、いつかはこの町で暮らしてみたいと思っている。■